

2018J2 ■順位表 ■第4節終了

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	水戸	10p	+7	8	1
2	岡山	10p	+5	6	1
3	山口	9p	+2	6	4
4	新潟	8p	+4	6	2
5	町田	8p	+3	7	4
6	東京V	8p	+2	4	2
7	福岡	7p	+1	5	4 A●
8	横浜FC	7p	+1	4	3 H●
9	徳島	6p	+2	6	4
10	熊本	6p	-2	6	8
11	大分	5p	+1	6	5
12	甲府	5p	+1	3	2
13	京都	5p	-1	5	6 A●
14	山形	5p	-2	6	8
15	大宮	4p	-1	5	6
16	金沢	4p	-1	3	4
17	松本	3p	-1	3	4
18	讃岐	3p	-2	2	4
19	岐阜	3p	-3	4	7 --- ---
20	栃木	3p	-7	5	12
21	千葉	1p	-5	4	9 AO
22	愛媛	0p	-6	2	8

次回HomeGame

第7節 vs. ヴァンフォーレ甲府
4/1 (日) 14:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業
TEL.058-263-5201

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

湯麺 戸塚
店主：戸塚 哲也
瑞穂市穂積1596-4
11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)
お休みは twitter: @Tanmen_Tozuka
でお知らせします

today's guest : **栃木SC**

2017 J3 16勝 2分 4敗 勝ち点60: 2位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2015/08/23 J2-30節@栃木グ	FC岐阜	栃木SC
栃木 0-1 岐阜 own goal.	2018/03/17 J2-4節@西京極 京都 2-1 岐阜	2018/03/17 J2-4節@栃木グ 栃木 1-0 讃岐
	2018/03/11 J2-3節@フクアリ 千葉 2-3 岐阜	2018/03/11 J2-3節@栃木グ 栃木 2-5 山口
	2018/03/03 J2-2節@長良川 岐阜 0-1 横浜FC	2018/03/04 J2-2節@Cスタ 岡山 3-0 栃木

●2018シーズンのホーム開幕戦。3/3 (土) 第2節・横浜FC戦を迎えて行われた試合を、0-1で落としたFC岐阜。開幕2連敗・無得点という結果にチーム状態が不安視されたが、続く3/11 (日) 第3節・アウェイ千葉戦では、激しいシュート・ゴールの応酬となった試合を、最後は#14 風間の見事なミドルシュートが決まり、3-2でアウェイゲームを制して、嬉しい今季初勝利を挙げることができた。しかし、3/17 (土) 第4節・アウェイ京都戦では、再び自分たちのミスで試合の流れを掴むことができずに失点し、1-2で敗戦。開幕からの4試合でのFC岐阜は、1勝3敗・4得点7失点で19位という成績になっている。まだ42試合中4試合なので、焦る必要はないが、やはり今季は簡単なミスで自らピンチを作っている印象が強い。また、昨年以上に、『ボールは持ってもシュートまで持ち込めない』場面が目立つ。ここをシーズンの早い段階でしっかりと修正していかなければ、今後も不安定な試合が続いてしまうことだろう。チーム全体で危機感を持って、速やかに改善に努めて欲しい。

さて、今節は今季初、中3日でのミッドウィーク (水曜) 開催、つまり中3日を挟んでの3連戦となる。そして、岐阜の対戦相手は、栃木 (20位) と愛媛 (22位)。順位を上げるための必須条件は、下位チームとの試合に勝つこと。そして、今季も最終順位21位以下はJ3に自動降格だから、(まだ4試合目だから大げさに言えば) この2試合はJ2残留争い「裏・天王山」とも言える試合だ。

さて、その大事な3連戦、今節の対戦相手は現在19位の栃木SCだ。3シーズンぶりにJ2に復帰した栃木だが、やはり開幕3連敗・12失点と厳しい状況に。しかし、前節に4バックから3バックに戻した結果、1-0で讃岐を破って今季初勝利。自信を取り戻して長良川に乗り込んでくるだろう。

栃木とのJリーグでの通算対戦成績は5勝2分8敗・12得点19失点。直近・2015年の対戦では、4/19 (日) 第8節・ホーム戦では0-1で敗れ、8/23 (日) 第30節・アウェイ戦では1-0で勝利。2007年 (JFL) にはJ2昇格を争い、2015年にはJ2残留を争い、そしていずれも競り勝った相手に、残念ながらJリーグ通算では負け越している。ここはしっかりと勝って、J2での経験値の違いを見せつけたいところだ。

栃木の要注意選手には、まずは#25 ネイツ・ペチュニクを挙げたい。昨季途中加入したJ2復帰の立役者は、今季も既に2得点。この大型FWとコンビを組む#9 大黒将志、シャドーの#14 西谷和希にも注意が必要だ。また栃木には、前所属がFC岐阜の、#14 菅和範 (08~11年)、#5 へニキ (14~15、17年)、#30 田代雅也 (18年) がいる。彼らも普段より気持ちが入っていることだろう。

J2でも若い選手が多い今季の岐阜。勢いがつけば怖いもの知らずだろうが、まだまだ不安定なチームだ。前節の敗戦で、気持ちが委縮しているかもしれないが、しかし、ここはホーム・長良川だ。『ホームでは絶対に勝つ』、そんな気持ちで臨んでもらいたい。そのためにも、僕らの声援 (時には叱咤激励) で選手の気持ちを奮い立たせ、背中を後押ししよう。選手たちも、そして僕らサポーターも、まずは2勝目を目指して、愚直に目の前の1試合を、90分間最後まで、勇気を持って戦い抜く姿勢が必要だ。『勝ちたいという気持ちが、より強い方が勝つ』、そんな試合を制して、最後には選手たちと万歳四唱をして、今季ホーム戦初勝利の喜びを、共に分かち合おう。(ささたく)

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

投稿募集 !!
gidaidohri@gmail.com

【第2節】岐阜 0-1 横浜 FC

●ついにやってきたホーム開幕戦。例年なら晴れてても風はまだ冷たいはずの、この時季にしては珍しいポカポカ陽気。その長良川に集まった万人近いファンやサポのために、ことに初めて来た方が「また来よう。」と思ってもらえるような勝利、ゴールが欲しかった。長年見慣れたサポなら次節も来るからね。その意味では残念だったけど、アディショナルタイムで盛り上げることはできたかな？

とはいえ、前節より出来はよかった。全体的によかったと思う。惜しむらくは後半の決定機。悠斗は、左右から寄せられてたけど何としてでもゴールを決めてほしかった。流し込んで欲しかった。ちょっとタイミングがずれたような気がしたんで、現地では「トゥーキックかな？」と思ったけど、D A Z Nを見たらずインサイドに当ててた。当たりが良くなかったのかな？おまけに利き足じゃなかったし。その直後に先制されて、それが決勝点。しかも、途中交替となってしまって、いっそう忸怩たる思いだったのではないだろうか。主将としての重圧があるのかもしれない。しかし、彼には彼のやり方があるハズ。両方とも見事にこなしてくれるのを期待してるよ！

逆に、福ちゃんが入るとやはり違いが如実に出てくるね。クロス、シュート。若い二人は、まだ思うようなプレーが出来てないように見える。ただ、アノ場面はクロス、浮き玉のパスじゃなく直接ゴールを狙って欲しかった。福ちゃんのゴールを早く見たいね！それから、キョーゴはやっぱリサイドが主戦場だな。真ん中に慣れてないだけだったかもしれないが、左右どちらでもサイドの方がイキイキするね。次節はどっちで起用されるんだろう？

試合前に、C C Nの“かさなるステージ”脇で放送されてた大木監督と元日本代表にして元F C岐阜監督、現在はラーメン屋「湯麺戸塚」（概略は岐大通にも記載）の店主でもある戸塚さんの対談の一部をたまたま見た。その中で監督の「今季は、特に上のレベルが上がったワケじゃないが、下のレベルが上がってきた。」という答えが印象に残った。つまり、チーム全体の底上げは出来た……と見ているワケだ。それなら、昨季のようにリーグ戦も天皇杯も固定メンバーで臨むというようなケースはなくなるだろう。終盤でのコンディションとかの心配は無くなりそうだ。今はいろいろお試し期間、ということなのかな？ただ、上のレベル云々は、やはり抜けた大駒三枚の穴は埋めきれれていない、という意味にも聞こえるのはボクが小心者だからだろうか（苦笑）。

とはいえ、昨季だって初勝利は四月。今季も気長につきあって行きましょう。思ったことはココに投稿していくけどね。（ぐん）

●ホーム開幕戦。ホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場で再会するサポーター同士での“新年”のあいさつも、すっかり馴染みの光景に（笑）。さて、対戦相手の横浜FCは…ベンチに#35 松井大輔、#40 レアンドロ・ドミンガス、そして#11 カズってさぁ…年くったとは言っても、どれだけ豪華なベンチメンバーなんだ（苦笑）。

さて、試合は…開幕戦・アウェイ福岡戦よりは悪くない。というか、福岡戦が悪すぎたんですが（苦笑）。相手のボール保持者に素早く寄せる姿勢や、パスの受際を狙われないように動いてボールを貰ったりして、今年のチームの課題を改善していこうとしているのが感じられた。ただ、フィニッシュまでの過程や精度は、まだまだ課題が残っているというか、もっと言えば、残念ながら攻撃に迫力がない。ユーティリティな選手も必要だが、フィニッシャー（ストライカー）はもっと必要だ。特にJ2では、上位チームにそういった役割の大型FWがいることが多い。今年のJ2得点王・横浜FC #10 イバのような。そして実際、この試合も得点を決めたのは、ゴールエリアでのクリアミスからゴールラインまで侵入されて出されたマイナスのクロスに、ヒールキックで合わせてネットを揺らしたイバだった。その後、守りに入る横浜FCに対し

て攻める岐阜に何度かチャンスは訪れるが、決めきれない。そのうち、#35 松井が投入され、ラスト2分で#11 カズが投入されてJリーグ最年長出場記録を更新するという“顔見世”……。そりゃまあ、サッカーファンとしては少しは嬉しい気持ちもあるけれど、自分とこのホーム戦でやられるのは、忸怩たるものがある訳で。もちろん、それは岐阜の選手たち自身が深く感じたことだろう。この悔しさを糧にして、チーム一丸となって奮起して欲しい。（ささたく）

【第3節】千葉 2-3 岐阜

●「ウチはプル&アウェイで福村の縦パスを引き出したキョーゴがトイメンを交わし切らない位置からクロス。中には宏矢しかいなかったが、DF 2人とGKを外しての先制点。福村のパスが絶妙だったのは言うまでもないが、前の二人で決め切った得点。クロスが上がった瞬間「来るっ！」と感ずることができたシビれるゴールだった。」……何の話だ？と思われちゃうけど、コレは昨季のフクアリでの試合について投稿から一部抜粋したモノです。いろいろ設定は違いますが、またしても福ちゃんが起点でした。相手DFが触れるかどうかの紙一重の必殺パス。やはり、彼の存在は大きいですね。それにしても、ホントよく勝ってくれました。シーズン初勝利の持つ意味。たかが……、されど……。コレでひと息つきます。安堵しました。

いや～、スゴイ試合でした。昨季以上の千葉のプレスに苦しみ、パスの乱れをインターセプトされての失点。その後も多くのピンチを迎えましたが、相変わらずの守護神や、正紀の神クリアでセーブ。正紀のは今節のベスト・セーブにノミネートされてしかるべきですよ。いかにもウチと千葉との試合でしたよ。でも、昨季の長良川より点数を半分に抑えましたからね（苦笑）。さらに昨季同様、この試合もボール支配率は千葉が圧倒しました。それでも、結果はウチの勝ち。千葉に、昨季のウチの姿を見る思いでした。ボール支配は手段であって目的ではない。縦の早いボールが増えたように見えるのはその意識の表れか？それとも、苦し紛れの故か？まだまだ、試行錯誤中。前途多難。それでも、勝てば良い。すぐには自信にはならないかもしれないが、少なくとも負のスパイラルからは脱出できるでしょう。とにかく、出来るだけ栃木には差を付けておきたい。小心者でごめんなさい。

しかし、宏矢のゴールはゴラッソ！ボールを受けてからの動き、シュートのコース、スピード。どれも完璧。何度見ても飽きることはない、スラロームのような動きからのゴール。平昌のアルペン・コースへ持って行っても金メダル級じゃないでしょうか？100満点中120点差し上げたい。でも、D A Z Nのベスト・ゴール・ランキングはまさかの3位。なんで、コレが3位だよ！と思ったけど、1位と2位は、さらにとんでもなかった……。あれはしょうがないな。でも、オレは宏矢の一番だからね？

今日はパウロもキョーゴもイイ出来でした。だから、後は山岸。キミだよ、キミっ！最初のシュートは枠に飛ばして欲しかった。いったんリードした後の跳ね返りは「ゴツツァンです！」って感じで、ボクの両手はもう肩の辺りまで上がってたよ（苦笑）なんか、もったいないね。こんなもんじゃないハズ。ライザもコンディションが上がって、パウロ、キョーゴが好調で、さらに宏矢も……となると与えられるチャンスは減ってくる。次こそは頼むよ！でも、D A Z Nで見直すと最初のシュートも相手が寄せて来てたし、後半のシュートもコースはあまりなかったようにも見えた。もうチョットだった。でも、最初のチャンスの田森とのアイコンタクトからの抜け出しや、悠史のゴールの場面での相手DFを引きつける動きとかには魅力的なものがある。ホント～に期待してます！

試合が行われたのは3/11。キックオフ前には黙とうが捧げられた。スタジアムで好きなビールを呑み、好きなクラブを応援し、応援しているクラブのゴールと勝利に狂喜乱舞。

かけがえのない満ち足りた時間。帰りの新幹線が停電で運転見合わせとか、思いがけないアクシデントもありましたが、仲間がいたので在来線乗り換えでも楽しく過ごすことができました。半分以上空席ができたこたまま車内で、今日の喜びと幸せをしみじみと感じるとともに、自分を取り巻く環境と仲間への感謝でいっぱいになりました。ただ、祈りをささげる日はこの日だけではないはずで、1/17も4/16、そして3/10や8月にも。日々を無事に過ごし、胸を躍らせながら週末を迎えることの幸運をかみしめたい。常にこの気持ちを忘れないようにします。さあ、次節は西京極。今季こそ勝利を見届けるため、18きっぷで参戦だ！（ぐん）

●個人的には、昨年のベストゲーム候補にも選んでいたアウェイ千葉戦。今年も「変態ハイライン」健在の千葉に、今年のFC岐阜はどう戦うのか。現在のチーム状況を見る上で大事な試合だと僕は思っていた。

しかし、試合序盤からペースを千葉に握られ…いや正確には“ペースを相手に譲った”と表現した方が良いかもしれない。なにせ、パスの精度が悪いのか選手の連携が深まっていないからなのか、簡単にボールを奪われて守備に回る時間が長すぎる。そもそもポゼッション率を高めるには「ボールを保持して守る時間を減らす」意図もあったはずなのに、これでは本末転倒だ。失点も、DFラインでイージーに蹴り出したボールを相手にインターセプトされてからのもの。これは一方的にやられてしまうか…と不安が募ってきていたところだったけれど、#16 福村の縦パスに反応して千葉のハイラインの裏に抜け出した#11 古橋が左サイドを一気に突破して切り込み、ゴール前を横切るパスに逆サイドから走り込んできた#7パウロが押し込んで同点ゴール！見事なカウンターでした。よし、今季初得点でチームも少しは落ち着き…いや正確には攻撃重視の両チーム、“殴り合い”に持ち込んだというべきか（苦笑）。後半もペースは千葉に握られ、何度もピンチを凌いだところで、インターセプトした#7パウロが、これもハイラインの裏に抜け出した#26長沼にパス。右サイドを切り込んで、最後は#28永島がGKの股抜きシュートで逆転！これも見事なカウンターでした（苦笑）。しかし、この後に千葉が攻撃陣を次々と投入。横浜FCの試合でも似たようなことを思ったけど、#8清武功暉や#11船山や#50指宿がベンチに揃ってるのは面倒…そして、残念ながらその攻撃陣の圧力に負けて、同点に追いつかれてしまう。一気にボルテージが上がるフクアリのを、しかし再び黙らせたのは、昨年プロ初のハットトリックをフクアリで達成した#14風間宏矢だった。左サイドから中央に持ち込んでDFをかわすと、ゴールエリア前で、そのまま鋭く右足を振り抜く。放たれたボールはGKの手の上を抜け、右上隅のゴールネットに突き刺さり…勝ち越しゴール！！ゴラッソ！！そして、この決勝点を守りきって、今季初勝利！！今年もまた、静まり返るフクアリのに、岐阜サポの歓喜の音が響き渡る。

後日、選手が「ハイラインの裏を狙っていた」という記事を見たのだけれど、いや、千葉相手だけじゃなくてどんどん相手DFラインの裏は狙っていいから（苦笑）。やはり古橋やパウロは前にスペースがある方がプレイが活きるなあ…と僕は感じている。そして、ショートパスだけでなく、リズムを変えて縦への長いパスも織り交ぜることが重要だということも。ボクシングに例えるなら、やはりジャブだけで相手を仕留めることは難しい、といったところだろうか。ともあれ、肝を冷やすような場面も天を仰ぎたくなるような場面もあった、どちらが勝利を手にするのか最後まで分からないような試合を制することができたのは、若い選手が多いチームにとって大きな自信と勢いになることだろう。もちろん課題も多かったので、その点はしっかり修正して、着実に勝利を積み重ねてほしいものです。（ささたく）

【第4節】京都 2-1 岐阜

●やはり、前節で今季初勝利を挙げることができたのは、対戦相手が相性の良い千葉だったからなのかなあ…（溜息）。今季末勝利の京都を相手に、（千葉戦の前半も実際そうだったけれど）組み立ての段階、中盤の狭いエリアで細かくパスを交換している段階でプレッシャーを掛けられ、パスミスでボールを奪われるシーンが何度もあり、失点もそこから。パスサッカーを目指すなら、その精度は生命線。単純計算で、パス成功率が平均9割なら3本繋いでも7割以上成功するけれど、平均8割なら3本成功するのは5割ということな訳で。まだ選手間の連携が深まっておらず、パスの精度が悪いのであれば、もっとシンプルに、縦へ出すプレー、ドリブルで突っかけるプレーを選択しないといけないのではないだろうか。しかし、前半の終わりに#23小野が出したロングボールに対する京都DFとGKの連携ミスを見逃さなかった#11古橋がボールを奪って同点弾！よし、これで後半は少しは落ち着いて…プレーできないのね（溜息）。後半も、中盤でのボールの奪われ方が悪すぎて、自分たちで試合のペースを手放しているような印象。やはり、中盤が前線に『ボールの収めどころ』が欲しい。そこでタメを作って、攻撃の緩急をつけて…と、そういった役割の選手が出てこない、チームに勢いが出てこないかもしれない。結局、1-2で敗戦。ボール支配率は6割あっても、シュート数は3対18。サッカーは、ボール支配率で勝負している訳ではないことを、改めて痛感させられる試合結果だった。（ささたく）

●前節を終えての順位表と今後の日程を見て「コレはやバイな……。」と。なにしろ今月の対戦が全部ウチより下位クラブばかり。まだまだ試行錯誤の段階だし、これが吉と出るか、凶と出るか、さて？などと考えてましたが、それ以前の問題でした。

思わぬミスが目立ちましたね。チャレンジしてのミスならいいんです。ただ、イージーなパスミスや中盤でのトラップミスがあるとね。もちろん、サッカーにミスは付き物。この試合の3点もミスが絡んでのモノ。ウチだけでなく京都にもありました。ただ、よりゴールに近いミスからしか得点できなかったウチの負け。京都の方がボールを持つてからのアイデア、連携があったように見えました。後半の宮本のミドルのようにいくつかチャンスは作りましたが、枠に飛ぶシュート、相手GKを脅かすような決定機がやはり少ない。京都と比べるとゴール前に顔を出す人数が足りない。ココは悠斗、悠史、そして宮本にガンバってもらいたいところです。キョーゴやパウロが好調で、彼らが作った好機を生かしてほしいですね。後は、右サイド。パウロと長沼のコンビ。パウロは、なかなか右SBとウマく連携できませんね。もちろん、長沼のフィジカル含めた成長は必須ですが、CBの2人は、この試合でも何度もピンチを、そして、その直前のキケンな場面を体を張って防いでくれました。特にアベちゃん、スゴイ！ただ、パス回数の上位を両CBが占めるようでは勝利は覚束ない。とにかく、4節まで見て感じたのは昨季と同じようなサッカーは今後も出来ない、ということ。いつ、どのタイミングで、長短交えた縦のパスを使えるか？それを活かせるか？がカギとなるように思います。撃ち合い上等、ハイラインの千葉には勝てました。ただ、他の対戦相手の最終ラインは京都ぐらいの高さでしょう。ことに、ウチとの試合になれば、さらに。ソレをどう打ち破るか？創意工夫が待たれるところ。時間はかかるでしょうが、やりきるしかない。ゴール裏から後押ししていきます！（ぐん）

